

夢をかなえるために 学んだことを 自分の言葉で 語る子どもを育てる

学校教育目標

「夢もち たくましく」

心を磨き  
知性を高め  
身体を鍛え  
共に生きん北広島市立  
東部中学校

# ひろがり

## 模索の中にも力強いまなざし

1ヵ月以上の臨時休校を経て、6月1日からようやく学校は再開しました。1週間はクラスを半分に分けての分散登校で、2週目は通常登校の5時間日課、3週目に6時間日課と、生徒の健康への配慮や感染対策を講じた新しい生活様式に生徒が順応できるよう、時間をかけて学校生活を再開しているところです。

「三密」を避ける、「ソーシャルディスタンス」など、お互いの距離をとりながら送る生活は今までの学校生活とは逆の常識のところもあり、校長先生の書の通り、まさに「模索」しながら生活を送っています。制約・制限のある中で生活ですが、力のあるまなざしで学習・部活動等に取り組んでいる生徒の姿が多く見られています。

世間的には緩和措置がとられる段階に入り、部活動でも感染対策をとりながらガイドラインが示されるなど、少しずつ日常を取り戻しています。大変な毎日ですが、この努力と経験が必ず「偉大な経験」となって生徒の将来の人生を支えてくれると信じています。学校としても、全力で生徒をサポートしますので、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



1階ホールに飾られている校長先生の書です。校長先生からみなさんに贈られた言葉です。「模索」(もさく)～みなさんを勇気づける言葉はなかなか見つかりませんが、今、みなさんは、これまでに誰も経験したことのない毎日を体験していることは確かです。様々な制約の中で、どう生きるべきかを模索する毎日決して無駄にはならないと思います～(ホール掲示文書一部抜粋)

### いじめ撲滅宣言にあたってのメッセージ

生徒会長

いじめは時には人を死に追いやるまでの精神的なダメージを与えてしまいます。いじめを受けたせいで自ら命を絶つ、という人が昔と比べて増えているのが現実です。最初は冗談のつもりでやっていたものが空気によってクラスの中に伝染し、とても大きなものになってしまいます。一人一人ができることとして自分が発言や行動するときは相手を傷つけないだろうか、と1度でも立ち止まって考えるだけで、心を痛める人は減ると思います。例えば周りでいじめが起こっていても、自分は別に関係ない、と思うのは間違いです。直接危害を与えていなくても加害者の一人になります。いじめを見て見ぬふりをすることは絶対にしてはいけません。人に注意をすることはとても勇気のいることです。でも傷ついている人や命を救うためにも注意し合える集団になることが大切だと思います。このようにいじめによって心を痛める人がゼロになるように東中生一同でいじめ撲滅宣言を行います。(出席者全員賛成)これからもいじめがゼロの東部中学校にしていきましょう。

